



赤木かん子の 「図書館を利用した “調べ学習”のしかた」>> 中級編

今回は、テーマの決めかたを、もう少し中学生らしくしていきましょう。

「初級編」は何も見ないでやる……つまり、「自分の知っている知識だけ！」を使ってテーマを決めるやりかたでした。これは小学校2年生からでもできる方法です。

厳密に言えば、このやりかたは正確だ、とはいえません。

が、たとえ中学生、高校生であっても、まず一回は初級編からやってください。

なぜかという、もう中学生なのだから中学生らしい方法でとって、いきなり中級編から始めてしまうと、理解できなくなってしまうからです。

初級編の「テーマの3点決め」は、物事を考えるときの基本です。まず、これが完全に自分のものになっていないと何もできません。

ただし、小学校2年生なら20分かかるところを中学生は3分で駆け抜けます。中学生は頭が働くようになっているからです。

でもその3分をやらないと、次にはいけないのです。

たった3分です。

ですから、必ず省略しないでやってください。

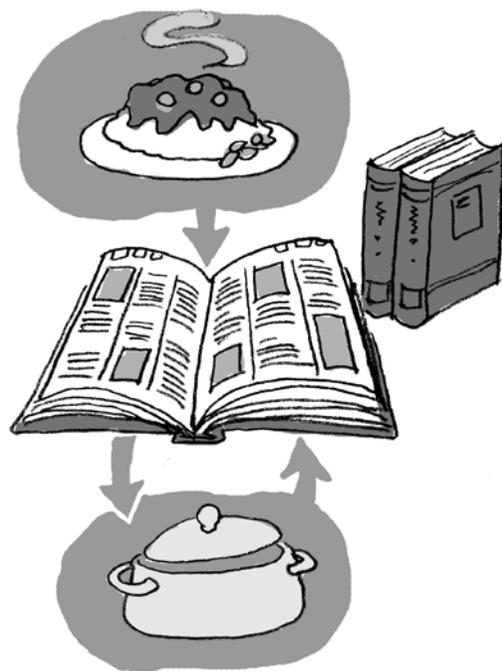
初級編が理解できたら、いよいよ「中級編」ですが、中級編は、**テーマ決めに百科事典を使います。**

まず一番目のキーワードを、たとえば「料理」と決めたら、まず、それを百科事典で引きます。

そして、その百科事典の記述の中から二番目のキーワードを決めます。

たとえば、「調味料（コショウ）」「調理器具（なべ）」「調理法（ゆでる）」など。

そして、それが決まったら、またその二番目のキーワードも百科事典で調べる…。



こうして、テーマに関する基礎知識をきちんと押さえます。

最後に、初級編と同様に“ミステリーカード”をつかってテーマを絞り込みます。



なぜ一番最初に百科事典を使うのかというと、百科事典には、まず初めにその言葉の定義が書いてあります。

たとえば“料理”を引くと、「食べられる食材を、食べられるように加工すること」と書いてあります。

この定義を知っているかどうか調べ学習の質を決めるのです。

さらに、自分の持っている知識に間違いがないかどうか確認し、自分が知らない知識を手に入れます。

調べ学習「中級編」は**“百科事典を二度引くことで、基礎知識をきちんとおさえる”**です。

ここまで理解できたら、次は、百科事典+ほかの本を使ったテーマ決めにいきましょう。

一番目のキーワードを決めて百科事典で定義を押さえた後、次に、そのキーワードを、ほかの本（つまりは専門書ですね。たとえば料理なら、ここでようやく図書館の料理の棚に行くのです）や、インターネットで情報収集をします。

定義を押さえているから、専門書を読んでも理解しやすくなっているのです。

しかし、インターネットの情報を自分の発表に使うわけにはいきませんから、インターネットは、このテーマに関してなにか面白いネタはないかなあ、ということを探すためだけに使います。

そうやって情報を集めてから、二番目のキーワードを決め、そのキーワードについても情報を集めるわけですから、うん、これでいける！ とテーマが確定したときにはたっぷり情報が集まり、結論も出ていて、あとは書くだけ！ になっているはずなのです。

では次回は、「そうやって情報は集めた。あとはそれをどうやって書くか」の、レポートの書き方にいきましょう。